

知っちよる？

しものせき J'sページ

東亜大学編

このページは、ジュニアのページ(J'sページ)として市内5大学と連携して作成しています。小・中学生、高校生に向けて、毎月、大学のユニークな取り組みや役立つ情報を分かりやすく紹介するコーナーです。記事は、月ごとに各大学が持ち回りで担当しています。

今月の担当は東亜大学です。

大切な命を救うために

一般的に、心肺停止から1分ごと約10%ずつ救命率が下がるといわれています。救急車が到着する8・5分もの間、何もしないでいると、たとえ救急車が到着して救命措置を行ったとしても蘇生は

救命率は？

総務省消防庁が昨年12月に発表した救急白書によると、平成28年中に出動した救急車の出動件数は全国で621万件に上り、件数、搬送人員ともに過去最多となりました。また、119番通報してから救急車が到着するまでの平均時間は、前年よりも6秒短縮されたものの、8・5分もの時間がかかってしまいます。

救急の現状は？

みんな、知っちよる？
今回は、東亜大学が心肺蘇生法について紹介します。

東亜大学は、救急車の中で特別な医療行為のできる「救急救命士」を養成して、今年で16年目を迎える。

「救急救命士」の養成

そこで重要となるのがバイスタンダー(居合わせた人)による「心肺蘇生」なのです。大まかには、意識のない人を発見したら、胸と腹部の動きを見て、呼吸がないと判断すると、直ちに胸骨圧迫(心臓マッサージ)を始めます。1分間に100回、120回のリズムで、5センチ程度の深さ。人工呼吸のできる人は胸骨圧迫30回に人工呼吸2回実施してください。*AED(自動体外式除細動器)があれば救命率はもっと向上します。要領さえつかめれば、誰にでもできます。

心肺蘇生法とは？

かなわないということになってしまいます。

北は北海道から南は沖縄まで、卒業生は全国各地で救急救命士として人の命に大きく関わっています。東亜大学には先輩たちに続けという使命感に燃えた救急救命士の卵たちがたくさん在籍し、日夜、勉強や訓練に励んでいます。

「一人でも多くの命を救う」救急救命士を養成している東亜大学の使命として、小学校・中学校・高等学校の児童・生徒や教員、老人会や幼稚園の保護者など、幅広い年齢層に対して「心肺蘇生法」の普及活動を2009年から始めており、これまで7000人に指導を行っています。

※1 心臓がけいれんし、全身に血液を流すポンプの機能を失った状態(心室細動)になった心臓に、電気ショックを与えて、正常な機能を回復させるための装置。空港、駅、学校などの公共の場に設置。



「なぜ心肺蘇生法は大切？」
全体説明



学生による模範演技



胸骨圧迫の個別指導



AEDトレーナーを使用した訓練